

NEXT 長崎人材育成事業(情報部会)意見交換会 報告

1. 日時:令和6年11月22日(金) 13:30-16:00 場所:諫早商業高校 会議室

2. 出席者:23名

- ・産業界 7名:長崎県情報産業協会 会長 ほか会員企業
- ・学校 10名:諫早商業高校、長崎商業高校、壱岐商業高校
- ・知事部局 1名:産業労働部新産業推進課
- ・本庁 5名:高校教育課

3. 総括:

グループ	主な意見	今後の対応
【A班】	(学校) ・県内情報系企業が生徒に認知されていない。 ・情報部会としては NISA と連携協定を締結したいと考えている。 (産業界) ・課題を抽出し、チームでコミュニケーションをとって課題を解決する力があれば、どの企業でも重宝される。 ・NISA として、連携は可能である。	・実習(課題研究)の内容を企業へ見ていただく機会として、1 月末実施の諫商情報科の課題研究発表会に NISA および NISA 加盟企業を招待する。可能ならば、発表会後に意見交換会を実施する。
【B班】	(産業界) ・アルゴリズム、問題解決力を身に付けるべき。 ・企業と学校お互いがお互いを知らない現状がある。 ・企業、協会ともに協力することは可能である。 ・NIS に希望を伝えてくれれば対応できることはある。	・情報部会と NISA の連携協定の締結を目指す。協定の締結へ向けて、連携の目的や内容等を協議する。 商業部会への声掛けも検討。
【C班】	(学校) ・実習への対応が学校だけでは難しい実情がある。 (企業) ・資格、成績よりも、プログラミングが好きで、コミュニケーション能力と課題解決力など、人間性が高い生徒を育ててほしい。 ・課題研究を、企業との協働で進める、発表会に企業を招くなどすれば生徒のやる気を高められる。	商業部会への声掛けも検討。

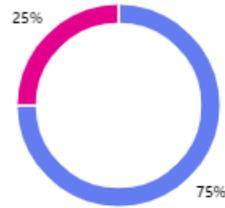
4. アンケート結果(概要):回答者14名(企業・知事部局 4名、学校 10名)

学校見学・授業見学について

企業・知事部局 【3.8 / 4.0】

4. 学校見学・授業参観はいかがでしたか。

- よかった 3
- だいたいよかった 1
- あまりよくなかった 0
- よくなかった 0



(アンケートの回答)

<企業および知事部局> 学校見学・授業見学の感想

- ・実際の授業を見ることができて良かった。多くの生徒が資格取得出来ている理由が分かった。
- ・生徒が実際に何を学習しているかを知ることができたので、大変、勉強になった。皆さんが熱心に取り組んでいる様子が印象的だった。
- ・「基本情報技術者試験」及び「HP 製作」関連の内容でしたが、授業のスピードが速く、ついて行ければ素晴らしいプログラマーになれるだろうと思う。
- ・PC の環境が資料提示の一方向に留まっているように思われました。生徒側からのアクションを受け取れる双方向の仕組みがあれば関心が深まるのではないのでしょうか。

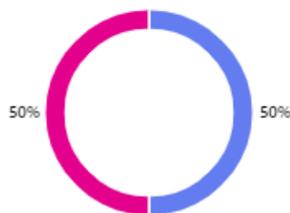
意見交換会について

企業・知事部局 【3.5 / 4.0】

学校 【4.0 / 4.0】

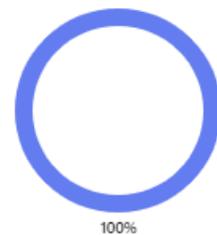
6. 意見交換会はいかがでしたか。

- よかった 2
- だいたいよかった 2
- あまりよくなかった 0
- よくなかった 0



2. 意見交換会はいかがでしたか。

- よかった 10
- だいたいよかった 0
- あまりよくなかった 0
- よくなかった 0



(アンケートの回答)

意見交換会の感想

<学校>

- ・企業がどのような人材を求めているのかを知ることができた。また、どこにポイントをおいて指導していく必要があるのか検討していくヒントをたくさんいただいた。

・企業に採用いただくために、問題解決を意識した学習の必要性を改めて学びました。

<企業および知事部局>

・いい授業をされていると感じましたし、今回のように企業の求める人材とマッチしているかなど意見交換ができ、長崎県(自治体、教育界)はいい取り組みをされていると感じました。

・情報関連企業と生徒の座談会の場を設け、生徒が社員の方に、実際にどんな仕事をしているのか等をフランクに聞けるような場を整えれば、就職時のイメージも湧きやすいと思った。

(アンケートの回答)

情報教育・情報人材の育成における課題

<学校>

・教育内容の精選、地域企業・大学等と連携した取り組みを増やす。情報分野への興味関心と、生涯を通じて情報分野に貢献したいという意欲と責任感を、学校活動を通じて育成すること。

・実習を展開するにあたり、教員側のスキルが不足している面がある。

・実践力をつけるための取り組みは不十分。学校現場だけでは難しい、作品制作のテーマや課題解決学習の教材となるものを企業の方々と連携し、課題解決型の取組ができればと考えます。

<企業および知事部局>

・用語やツールの使い方といった表層的な知識も大事ですが、問題解決力や問題を見つけ出す力をいかに身につけるかが重要と思います。

・実習科目やグループを組んだ課題研究などを県内企業と連携して取り組めたらもっと専門的な内容にも触れることが出来るのではと思いました。

・日々新たな技術ややり方等が生まれている情報分野。生徒と一緒に調べる程度のスタンスで良いのでは、と感じた。生徒の意欲的な取組を応援するようなスタンスで良いと思う。

今後、産業界と教育現場、県の関係部局等の連携において、取り組んでみたいこと。

<学校>

・生徒が直接、企業の方から話を聞くことで、生徒が働いてみたいと思う企業と出会う機会。

・高校から就職した生徒が高校で企業説明を行ったり、インターンシップをおこなうなど。

・授業連携(学校では即対応が難しい最先端の内容を提供して頂く)。学校成果発表会への企業参加(企業より、専門的なコメントを頂く)。

・実習科目における連携・企業見学会。長期休業中のインターンシップ(希望者がかまわない)

・実践学習の中で、企業の方々から教材のフォローやアドバイスをしていただく

・長崎大学・長崎県立大学、企業・高校と連携した取り組み

・技術的な提携だけではなく、思考法などアイデアの出し方などの連携ができればよい。

<企業および知事部局>

- ・実習科目や課題研究などの連携 ・県内就職を増やすため学校での座談会や企業説明会、企業訪問の機会
- ・経営的には厳しいので、助成金の支給等を考えていただけたら幸いです。

その他、本事業への要望・ご意見等

<学校>

- ・長崎県で学んだ生徒達が、優秀なIT人材として活躍し、一度は県外に出たとしても長崎に戻ってきて地域産業のために活躍できる人材を育成する事業になるとよい。

<企業および知事部局>

- ・進学後の就職先として県内企業も選択肢に入るとよい。
- ・Web系以外のソフトウェア開発(各種制御装置の制御)にも興味を持ってもらえるとありがたいです。やはりこれは工業高校の使命になるのでしょうか。

6. 実施の様子

